

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401105		
法人名	有限会社 タワラ		
事業所名	グループホーム 幸せの枝		
所在地	〒814-0175 福岡県福岡市早良区田村4丁目19番24号 Tel 092-863-1556		
自己評価作成日	令和05年10月01日	評価結果確定日	令和05年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな生活環境の中それぞれ介護度の違う入居者様が一緒に生活しています。朝は体操に始まり経験豊富なスタッフと一緒に過ごしています。入居者様の入れ替わりもありますが、早期になじまれています。季節の変わり目はコスモス見学や花見等介護タクシーを使って出かけています。最近では大濠公園ドライブをしました。外の空気を肌で感じて頂くように心掛けています。食事手作り暖かい食事を提供しています。又、入居者様の状態に合わせてメニューや形態に工夫をしています。月1回は仕出し弁当を食べて頂き目楽しんで頂いています。入居者様の状況は毎月通信でお伝えしています。又、ひとりこしない介護に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年10月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市早良区の静かな住宅街の中に21年前に開設した、定員9名のグループホームである。「家に花がないと淋しいから」と、玄関前には黄色を基調にした花々を植え、職員が持ち寄った生花を育て、季節感と家庭的な雰囲気を大切に、居心地の良い環境を整えている。ホーム提携医、入居前からのかかりつけ医と密に連携を取りながら利用者の健康管理を行い、「ここで最期まで」との希望も多く、看取りにも取り組んでいる。料理上手なベテラン職員が旬の食材を使って作る美味しい料理を提供し、月1回は仕出し弁当をとって目で楽しんでもらう取り組みは利用者的好评である。感染対策を行いながら、秋桜を観に出かけたり、大濠公園ドライブを行う等利用者の気分転換を図り、生き生きとした表情の写真を載せた「しあわせ通信」を毎月家族に送付して状況を報告し、「安心できる優れた事業所」と、家族から高い評価を得ているグループホーム「幸せの枝」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝基本理念運営方針を唱和しスタッフ、入居者様の安全を願うケアにあたっている。	基本理念と運営方針を毎朝の申し送り時に唱和して、「今日1日、事故なく楽しくやろう」と声を掛け合うことから1日が始まっている。職員一人ひとりが理念や基本方針の意義や目的を理解し、利用者の心のリハビリ、利用者の力を引き出すケア、重度化しても地域の中で暮らし続けられるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ散歩の機会を増やしている。日中は暑いので朝の早い時間帯に出かけている。中学生や先生に挨拶をし自分も若い頃があったとお話されます。	コロナ対策の為、地域との交流の機会は減っていたが、新型コロナ「5類」移行に伴い、少しずつ散歩の機会を増やし、地域の方と挨拶を交わしている。近隣の保育園児が散歩の途中で立ち寄ってくれることもあり、コロナの状況を判断しながら交流の再開に向けて検討を始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議やラン伴等々の活動を利用し地域との交流を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換の場として苑の状況や相談等を報告している。又、意見等を取り入れながら向上に努めている。	令和5年5月から対面での会議を再開している。家族代表、元家族、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月毎に開催し、利用者状況、活動状況、事故・ヒヤリハット、感染症対策等報告し、参加委員から意見や情報提供を受け、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特にいきいきセンター様には相談、助言等を頂き不明な点は市の方にも相談相談している。	コロナ対策の為、直接行政に出向く機会は減っているが、疑問点や困難事例について相談したり、事故があった時には報告を行っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを伝え、アドバイスや情報提供を受け協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の全体会議に於いて身体拘束廃止に向けて意見交換しゼロを実践している。基本玄関は鍵を解放している。基本見守りと工夫で取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けた委員会を3ヶ月毎に全体会議の中で実施し、年2回身体拘束の職員研修を行い、身体拘束となる具体的な行為の確認、薬や言葉による抑制、グレーゾーン等について事例を挙げて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修をする事で知識や理解を深めている。アザや傷も含めて見逃さない。発見時は家族に報告し理解をして頂いている。原因を探しスタッフで情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談事が発生した場合は事業所の行政書士が対応する。難しい問題であり伝達講習を定期的に行い理解をしている。	権利擁護の制度について、外部研修を受講した職員が内部で伝達研修を行い、職員一人ひとりが制度について理解を深めている。また、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法を分かり易く説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整えている。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い理解を得ている。又、不明な都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会時間を設定させて頂いているがその際に近況報告し説明している。又、定期的文書でも書いて頂き意見お聞きしている。	10分程度居室での面会が出来るようにしている。家族の面会や運営推進会議時、電話、LINE等で家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や業務に反映させている。また、「しあわせ通信」を毎月家族に送付して利用者の健康状態や暮らしぶりを詳細に伝え、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からミニカンファレンス、全体会議に於いて話し合い意見交換しながら介護の向上に努めている。	夜勤入りの職員以外基本的に全員参加の職員全体会議を毎月開催し、利用者一人ひとりのカンファレンスを兼ねて活発な話し合いが行われている。また、毎朝のミニカンファレンスの中で、職員の気付きや気になる事を話し合い、管理者に相談して解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望はほぼ聞き入れている。毎日仕事への意欲持って働けるよう様々な支援をしている。個々の意見を取り入れ働きやすい環境づくりをしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女又、年齢に関係なく採用している。職員に関しては高齢化している。その分経験豊富であり家族、入居者様にも安心しておられる。スタッフも自分の経験を活かして勤務している。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、明るくて協調性のある方を採用している。職員の勤務時間や休憩時間、希望休に柔軟に配慮し、働きやすい職場環境である。ベテラン職員が定着しているので、食事作り、園芸、創作、レクリエーション等、職員一人ひとりの特技を活かして楽しく働けるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様に対しては人生の先輩でもあり尊厳を持って対応している。スタッフ同士声を掛け合い言動には注意をしながら自己啓発に努めている。	絶対に守らなければいけない事として、利用者の人権の尊重について、職員会議や毎日の申し送り時に話し合っている。利用者の過去の生活歴を把握して、日常会話の中から過去を振り返る等、利用者を理解する努力を重ね、職員間で情報を共有しながら、利用者一人ひとりの暮らしの支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力量を認めながらケアにあたっている。苑内研修ではあるが受けながら初心を忘れないように自己研鑽に努めている。若いスタッフを育てるために外部への研修を進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームで結成されるいとこの会、ラン伴等に参加し交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは相談を受けた後見学をお願いしている。その後体験入居して頂く。その後は家族様からも情報をお聞きし本人様の要望をお聞きし内容に従ってケアを行う。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と連絡を取り合い少しずつ不安等を解消し信頼関係を築き上げていく。家族の要望も聞き入れながら関係づくりに努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍の中支援に限界はあるが基本要望はお聞きしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的の雰囲気の中でできると事は、して頂きおしぼりたたみ、テーブル拭き、洗濯物たたみ等はして頂きその能力にあった活動をして頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日中問わず外に出て行く方、特に夜間に帰宅願望がある方は電話の支援をお願いしている。苑と家族で支援を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ここ近年コロナ禍で関係が薄れているが支援は、努めている。	新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行されたので、感染予防対策を講じながら、家族が同行して馴染みの美容室に行き、帰りにご飯を食べて帰ることも出来るようになり、利用者が長年築いてきた人間関係や地域との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。人生の最終章のこの時に、ここで出会って仲良くなるのも何かの縁と考え、利用者同士の馴染みの関係も大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様も高齢化し活動も限られる中で体操をしたりカラオケをしたりほりビングで過ごされている。入居者様が座られる時スタッフ見守りの中で椅子を引いて下さったり支え合っておられる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	苑で看取りをされた方の家族で推進会議参加し交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の体操後は基本自由に過ごして頂いている。家族の意向も取り入れながら、ひとりにならない介護に配慮している。	職員は、日常の中で、利用者の希望や意向等を聴き取り、家族と協力して利用者の思いの実現に取り組んでいる。意思を伝えることが難しい利用者には、家族に相談し、過去のアセスメントを読み返し、職員が利用者寄り添い、その表情や仕草等から利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、家族、ケアマネ、主治医の情報を元に日々ケアの中でも話題を提供して特に過去の情報の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去の情報を探りその人の能力、生活のリズムを理解をして個別のケアに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の協力、情報を得て主治医の指導を活かしている。月1回のカンファレンスの中で意見交換し検討、評価して介護計画に繋げている。	介護計画の変更前に、利用者の変化を伝え、家族に不満や追加して欲しいことが無いかを確認し、同意を得ている。カンファレンスや申し送りの中で話し合い、主治医や看護師の意見も参考にして、利用者本位の介護計画を短期半年、長期1年毎に作成している。利用者の状態変化に合わせて現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中で日勤、夜勤帯で変化があれば記録し申し送りしている。毎朝のミニカンファレンスでは再度確認し申し送りノートを活用し情報を共有している。又、全体会議の中で再確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望は相談しながら受け入れ入居者様にとってより良い個別ケアに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中でも定期的に出掛けている。ケアタクシーを使い公園、コスモス見学等出掛けて外の空気を感している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医を得て入居者様の健康管理をされている。何かあれば受診し夜間にも対応出来る体制で連携もとれている。希望にて看取りも行っている。	入居時に利用者や家族と話し合い、希望を優先して主治医を決めている。地域医療に熱心なホーム協力医師による隔週毎の往診と夜間を含め緊急時の対応、ホーム看護師、介護職員の連携で、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常と違う変化があれば主治医には報告指示を仰いでいる。その指示に従って対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時は家族だけでなくスタッフも一緒に付き添いをして。入院時は介護添書作成や情報を提供し退院時は情報やケアについてアドバイスを受けて実践している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向も踏まえ主治医、家族、施設で十分な説明を行い理解をし方向性を同じくしている。病院を希望されている方は主治医と協力機関との連携で対応している。	重度化や終末期に向けたホームの方針を、利用者や家族に説明し、終末期の希望を聞いている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を確認し、職員全員が方針を共有して、「ここで最期まで」との希望があれば看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療又は急変時のマニュアルに沿って勉強会をしている。苑で起こりうる転倒、誤嚥、徘徊等は最も起こりうる出来事である。異常に気が付いた場合の対応を繰り返し訓練を行い理解を深めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年2回日勤帯、夜勤帯を想定して行っている。又、災害に対しても意識レベルの向上に努めている。マニュアルを参考に勉強会を行っている。当苑は危険区域ではないが様々な災害には連携を図っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路、避難場所等を確認して、利用者全員を安全に避難誘導できるように訓練している。また、非常食、飲料水も備蓄し、定期的に入れ替えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な人生を送って来られた方に対して尊厳を持って対応している。一人ひとりにあった声掛けでその人らしく生活して頂けるように支援している。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員会議の中で話し合い、言葉遣いや対応に注意している。全体会議や内部研修で、排泄や入浴の場面での声かけや介助について話し合い、利用者の羞恥心に配慮している。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明して周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事はお聞きし実践して要望には沿うようにしている。認知症でも自己決定は最後まで必要である。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のレベルや生活のペースに合わせた対応を心掛けている。入居者様の個々の把握が出来ており無理強いはない。自由に過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の高齢化が進み自分では出来なくなっている。毎朝のケアに気を付けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レベル低下もあり一緒に出来る事は限られているがテーブル拭きは手伝って頂いている。希望をお聞きし出前を取ったり皆さんでたこ焼き、焼きそば等作る行程を楽しんで頂いている。	利用者の嗜好を聴きながら、調理担当のベテラン職員が愛情込めて作る美味しい料理を提供している。肉が嫌いな人には魚を提供したり、その人に合わせた形態で提供する等、配慮している。月に1回仕出し弁当を取って食べる等、利用者が食べる楽しさを感じられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を参考に食事を提供している。食事、水分が自分ではとれない方は毎食チェックしている。又、情報を共有している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診で口腔内の異常は報告してもらっている。また家族にも報告している。食後の歯磨きは欠かさず個別で対応している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2人介助でも歩行出来ればトイレ誘導を行っている。声掛けや見守り工夫をこらし尊厳を傷つけないように支援している。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや生活習慣を把握して早めの声掛けや誘導を行い、排泄の自立支援に取り組んでいる。夜間も利用者の希望や状態に応じて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方にあった排泄習慣を把握し対応している。水分を摂って頂くように様々な水分を用意している。その中から好きな飲み物を提供している。排泄の大切さを声掛けしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別の入浴で対応している。車椅子使用の方は2人介助で行っている。拒否される方は無理強いせず曜日を変えて入浴して頂いている。急変時に備えて日勤帯で行っている。	入浴は利用者の希望や体調に合わせて、自立の方は週3回、寝たきりの方は週2回とベッドバスが1回となっている。状況に応じて、職員2名介助で対応する等、チームワークで臨機応変に支援している。入浴拒否の利用者には、それぞれに気の合う職員が声掛けしたり、時間を変更して無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤帯で電気をつけておかないと眠れない方がおられる。生活習慣を尊重している。日勤帯に於いても自由に過ごして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬の内容、用途、副作用が何時でも個人のカルテに付けている。薬剤の変更や重要な薬は朝のミニカンファレンスでも申し送りノートでも情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のレベルに合わせた活動をお願いしている。テーブル拭き、洗濯物たたみ、花の芽つみ等のお手伝いをして頂いている。又、好きな歌手のDVDを観て気分転換を図られている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レベル低下もあり車椅子使用での外出が多くなっている。ケアタクシーを使い定期的に出掛けている。少しずつ散歩も行って近所との交流を図っている。	感染予防対策を講じながら、少しずつ外出を再開している。介護タクシーを利用して秋桜を観に出かけたり、大濠公園ドライブで車窓から季節の風景を楽しむ等、気分転換を図っている。近所の散歩や、玄関前に咲く花々やプランターで育つ野菜を眺める外気浴も楽しい時間である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約時に家族、本人に説明して原則立替にしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夏には暑中見舞い見舞い、冬は年賀状を書いて出している。年々文字を書けなくなっている。名前だけは書いて頂き家族に伝えている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを中心に各部屋があり誘導や見守りがし易い。特に生活臭に配慮してしている。見学者には臭いがしないとの評価を得ている。季節の花等を飾り昔家に咲いていた、道に咲いていたなどの感想が聞いている。	玄関周りのプランターには季節の花が咲き、室内にも生花を飾り、自宅のように寛げる家庭的な環境である。季節の飾り物や作品、写真をたくさん飾り、季節感大切にしている。臭いには特に気をつけ、換気や清掃を小まめに行い、清潔感のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って好きな音楽を聴いたり災害のテレビを皆さんで観て語りあったりして自由に過ごして頂いている。レベル低下もあり皆さんで行なう事は限られてきている。一人で過ごせる空間は大切にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して準備している。配置には転倒等しないように気を付けている。コロナ禍で泊まりは行っていない。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が自宅で使っていた馴染みの筆筒やソファ、電気製品や家族の写真等を持ち込んでもらい、見慣れたものに囲まれることで、利用者が安心して穏やかに暮らせるよう支援している。また、清掃も行き届き、清潔で気持ちよく過ごすことの出来る居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂く為に案内板を表示している。段差はもとより手すりを使用してトイレ誘導もスムーズに行えている。又、不備があればすぐに対応出来る様にしている。		